

平成 2 4 年度
第 1 回 屋 島 会 議

参 考 資 料

事業者意識調査結果	1
---------------------	---

問 3	<p>問2の課題以外で考えられる課題とその解決策があれば御記入下さい。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 200px; margin: 10px 0;"></div>
問 4	<p>最後に、屋島の持つ特性や価値を再発見し、屋島の保存と活性化を図るため、屋島に対する御意見等があれば何でも御記入下さい。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 200px; margin: 10px 0;"></div>

以上で質問は終わりです。御協力ありがとうございました。最後に、事業者名をお書き下さい。

事業者名	
------	--

返信用封筒（切手不要）に入れ、平成24年5月7日（月）までに投函してください。
この調査票のみ御返信下さい。

各質問に対する事業者の意識・意見等は、以下に示すとおりである。

問1 屋島活性化基本構想(仮称)中間報告で示された基本方針(同封「中間報告」48ページ)について、御意見をお聞かせ下さい。また、付け加えたい方針等があれば御教示下さい。

- ア. 「屋島学」を全国へ発信することにより、香川県に来る観光客等の動線のあり方を見直す。
- イ. 車、飛行機、電車、旅行会社とのコラボレーション(パッケージ)などを検討する。
- ウ. 屋島についての分析は判る。一つ一つの方針も異を唱える人はいないと思う。但し、抽象的すぎて、何を最優先していくのか、いつまでに(いつ頃までに)、何を目指していくのか、例えば世界遺産登録なのか、観光客の入山人数の増大なのか、よく判らない。最優先方針を一つか二つぐらいまで絞った方が良い。
- エ. 歴史・文化・景観も大事だが、「楽しさ」がないと人は集まらないと思う。
- オ. 文化財、景観の保全は大切であるが、保存だけでは博物館と同じになる。現実に活用できてこそ屋島が生き延びることができる。そうした意味から基本方針のウの条項(知的欲求を満たす「文化観光」の創造)が重要である。幸い高松市には瀬戸内国際芸術祭でのブランド化の経験があるのでこれを活用すべきである。
- カ. 日本全国に情報発信するには屋島山上単独での観光でなく、周辺の史跡を併せた観光バスを土日祝日だけでも復活し、存在感を示す必要がある。(参考例1:四万十市、土佐清水市における「しまんと・足摺号」、参考例2:愛媛県の「ぐるっと宇和島号」)
- キ. 市民の憩いの場として、函館山の夜景をイメージして、プラス瀬戸内の夕陽と多島美で観光客を集客する。
- ク. 屋島に対する基本認識は同じです。しかし瀬戸内海国立公園、史跡天然記念物だけでは人が集まらない。具体的に人が集まって来る施設を作ることが必要である。
- ケ. ①まず対象について学習する機会を得る事で、②新たな発見や創造が生まれ、既存の知識が一段と深化する過程で③その知識は必ず対象に対する貴重な愛着に変化し④その発露として個々の人に話したい、自慢したい人情⑤その結果、話を聞いた人が確認に訪れる。これこそ(学習する)→(新たに知る)→(愛着が生まれる)→(人に自慢したくなる)→(聞いた人々が集まる)とする、観光開発5サイクルの循環であり、中間報告の屋島の活性化の方向性には共感する。しかし中間報告の基本方針では、④⑤の発信、交流の部分が欠落している様に思う。多少商業主義のように取られるかもしれないが、そもそも屋島会議も昭和47年の246万人から平成22年には50万人まで落ち込んだ最近の低落傾向を何とかしようというのが発端であり、最終提言では当然論じられるだろうが、中間発表と言えども、明確に加えるべきと考える。先の市民意識調査でも屋島の認知度が30%程度とする数字を見ても原因の一部がここにあると感じる。基本方針の(キ)として、「人材育成と情報の発信によるグローバル化への対応」を加えたら良いと思う。今後はインバウンドを除いての観光は考えられない。
- コ. 基本方針は良いと思う。更に「体験型ツーリズム(例.屋島の夕日)」或いは「イベント型活性化策」を付加すると良い。
- サ. 人を集めたいのか、収入を増やしたいのかが明確ではないように思う。
- シ. 基本方針に沿って、早急に整備すべきと思う。

問2 屋島においては、水族館の老朽化や廃屋、廃屋撤去後の更地の利活用などいくつかの課題（「中間報告」46ページ）があります。これら課題の解決策やアイデアを御教示下さい。

<廃屋撤去後の更地の利活用>

- ア. レストラン（展望）など、カフェや土産物店を充実させる。
- イ. 集客力のある施設を充実させる。
- ウ. 瀬戸内海の景色を見ながら飲食ができるよう、眺望の良好な跡地に景観とマッチするおしゃれなレストランを設置する。
- エ. 源平古戦場に関する資料館や展示館など、ランドマーク的なものを建設する。
- オ. 山上駅等は現代アートの作品展示場として活用する。
- カ. 駐車場近くの跡地はインフォメーションセンターとして活用する。
- キ. 源平合戦資料館などを整備する。
- ク. 展望台を充実させる。
- ケ. 屋島寺を中心としたミニ八十八ヶ所めぐりとさぬきうどんめぐりのできる施設として利用する。
- コ. 高松市西部、五色台のドライブウェイ沿いに県立の瀬戸内歴史民俗資料館がある。40年も以前には五色台も香川県の観光地の一部で周遊コースに入っていたが、今ではその名前すら聞かない。「日本民族は何処から来たか」が最終テーマと聞いているが、今では学芸委員の研究の場のみになったのか、保存と活用の後者は名ばかりである。埋蔵品も全国から寄せられ満杯状態と聞いている。県と協議して分館でも建設し、瀬戸内海ゆかりの品々を展示活用すれば、全国に名だたる文化拠点になると思う。
- サ. 公園として整備する。
- シ. 国内の観光地と勝負するには、街並、温泉、飲食、体験、自然、動物等核となるものが必要だと思う。
- ス. 海の食材を使った飲食施設や体験型施設、高級宿泊施設が望ましいと思う。（関西にあるもくもくファームの海版的なもの）（地元の漁業者と連携して活性化出来るのではないか）
- セ. 市民がもっと身近に集える施設や場にしてほしい。

<水族館の老朽化>

- ア. 子供達がふれあえる動物を飼育し、家族向けの施設とする。
- イ. 何故屋島の山上に水族館があるのか、その理由がわからない。よほど価値がない限り、ドライブウェイ料金を払ったうえ水族館の料金まで払って行く人は少ないと思う。
- ウ. 山頂に水族館は不要。
- エ. 山上にある水族館という意味では珍しく、子供連れの地元訪問者を増やす意味で存在価値があるので収支償う範囲では修復して使用するのが良い。
- オ. 山の上の水族館として、リニューアルをして売り出す。（海辺や内陸での水族館に対して）
- カ. 3月にオープンした京都水族館のように、最新設備で特色をもったテーマで集客力のあるものに作り変える。
- キ. 観光施設はそのルート上に作れるの原則通り不振な屋島の中でも良く健闘していると思う。昭和44年に文化庁や環境庁が良く許可したと思う。しかし水族館はやはりサンポートに立地するのが良いと思う。無くなると当面屋島が寂しくなるが、中・長期には、地元の世界メーカーと共同しながら移転を考える方向が良いと思う。
- ク. 他都市の水族館と比較しても今の規模で集客を図るには限界がある。リニューアルするよりも廃止するべきである。

- ケ. 中途半端な施設は必要ないのではないか。（現状、海遊館など近県の水族館に行く人の方が多いのではないか）
- コ. 特化した水族館でなくては幼児しか来なくなると思う。例えば魚の捕食を見せるとか、産卵・ふ化・出産を見せるとか、死骸の解剖とか、人手（手間）はかかるが学習、ワークショップ的な取り組みが必要ではないか。（旭山動物園の水族館版のような）
- カ. コストの兼ね合いを考えた上で検討

<ドライブウェイを含む屋島山上へのアクセス>

- ア. 車だけでなく、高松市街地からの無料バス（ツアーバス）の充実を図る。（「水族館入館券付き」など。）
- イ. アクセス料金が高額すぎるのが屋島観光阻害の一因となっていることは間違いない。できる限り無料化を望む。特に地域住民の集客を考えるべきである。
- ウ. 自家用車の通行料金は300円が妥当であり、610円は高すぎる。
- エ. 有料を維持するにしてもアメリカの有料道路のように無人化、ワンコイン式（100円）にすればコストにみあった24時間化が出来ると思う。
- オ. 夜間通行止めでは屋島は活性化できない。24時間利用にすべきである。
- カ. バスは山上での飲食に酒を伴う場合、自家用車の運転ができなくなるのでバスの運行時間を山上から最終21時30分までの延長が必要である。そのためには現在のバス片道100円を18時以降200円、20時以降300円としても良い。また、JR高松駅からのバス便があるのが望ましい。
- キ. 人が集まるようになればバスの定期便を考えてはどうか。
- ク. 昭和36年の開通で、これもよく認可されたものだと思う。市民の声として多くは無料化、駐車場の有料化を耳にする。しかし自分が行く時の手軽さは格別だが料金は高い、山上のあり方ははっきりしない現在だが、日・祭日には、サンポートからの便を運行するくらいはやるべきだ。
- ケ. このままでよい

<ケーブルまたはケーブル跡地、ケーブル跡施設の取り扱い>

- ア. ケーブル跡地を屋島の植物等を見学できる遊歩道・登山道として整備し、案内（ツアー）する。
- イ. ケーブルは季節の花木を見られる情緒ある施設にする。（京都のトロッコ列車のような）
- ウ. 屋島に賑わいが戻れば自然にケーブルの利用も増加し、維持管理費も出せると思う。
- エ. ケーブル山上駅は現代アートの展示場として活用する。またケーブルの線路跡は歩行用に活用する。
- オ. 難しいとは思いますが、ケーブルカーはあった方がよい。
- カ. 昭和4年開業以来平成16年まで、ドライブウェイ開業までは参道以外唯一の足として、昭和36年以降はドライブウェイとの競争の中でもよく頑張ってきたと思う。歴史民俗協会などよく言われるのは歴史的建造物として駅舎を残すべきだといった意見、そして跡地利用については周辺の環境を痛めないことが第一、次に何か考えるにしてもそのコンセプトから入るべきだと思う。ゴンドラやリフトが考えられるが、個人的には費用対効果や団体から個人への最近の流れ、若い人へのアピール力を加味して、リフトを推す。しかもカップルシートのリフトである。札幌でも何回も視察したが、大人気である。（冬は当然ジャンプ台の客が中心）。屋島で愛を叫ぶ、二人だけの世界を作ってやることで、イメージも古い屋島から恋人のメッカに変わるかもしれない。日本一になった藻岩山観光協会の標語は、「私はここに

来て初めて札幌が好きになりました。」「私はここに来て本当に彼が好きになりました。」である。

- キ. ケーブル関係者の話によれば、「ドライブウェイがある限りケーブルは成り立たない、ドライブウェイは緊急用にして閉鎖すれば別だが」とのことだ。ケーブルの再開以外の使用についてはゴンドラにしるリフトにしる役所の反発はあるだろうが21世紀型の移動手段が欲しい所である。
- ク. 公園あるいはイベントスペースへの転用。
- ケ. 急傾斜で検討は必要だがアトラクションとして再利用しては。 (例えば、ミニ八十八ヶ所、お砂踏みのようなものとか)

問3 問2の課題以外で考えられる課題とその解決策があれば御記入下さい。

- ア. 屋島をアピールすることにより人のアクセス動線(バス、車、ツアーなど)を確保し、屋島に行きやすくする。
- イ. 県外への告知ポスター、パンフ作成、配布。
- ウ. 香川県外出身者にとって「屋島」は学校の教科書で習う間違いなく有名な土地である。初めて屋島を訪れた時、あの有名な那須与一の扇的当てがどこであり、資料館等があつてしかるべきだと思っていたのだが、土産物屋と水族館とお寺しかなく、紹介する資料館等がないことに非常に驚きを感じた。また、大河ドラマ等で、源平合戦がとりあげられても、それを契機に展示館やドラマ館で地元を盛り上げる他県に比べあまり目立った動きをしない高松市に驚きを感じる。県外の間人にとって「屋島」とはまず源平の古戦場ではないかと思う。屋島の山上に古戦にまつわる常設の展示館をつくるべきだと思う。
- エ. 屋島を瀬戸内海のシンボルにする。
- オ. 幼少から地域を知るための活動は不可欠である。地元の自然、文化、歴史に親しみを持たせるためにも小学校の遠足や校外学習の中に屋島を推す市教委の施策も大切な事ではないかと思う。また、ボランティアの案内人も不可欠だと思う。昔は先生の出身者などがいて随分賑やかだった。日頃から、こうした人材づくりも考えておくことが必要である。
- カ. 幼稚園、小学校などの教育の場にも使う案をもっと多くするようにし、高松の市民は子供の頃から屋島と親しく知る所になるようにすれば良いと思う。
- キ. 屋島の来訪者は山上の駐車場に車を置き、霊巖茶屋と桃太郎旅館の道を廻って30分で元に戻るコースが90%であろう。遊鶴亭や談古嶺、山上駅や屋嶋城跡など、幅広く散策体験が出来る様、地図や標示板に方向や所要時間など来訪者にやさしい表現を工夫したり、行ってみたくなる様な内容が望まれる。移動には小型自転車や、ゴーカートなどにも挑戦したいものだ。
- ク. 鑑真和上ゆかりの千間堂跡の調査など北嶺方面の対策は不可欠である。
- ケ. 目玉がないということ、現状では屋島寺だけだと思う。
- コ. 現状では周知(PR)しても意味はないが、観光施設があれば、もっと積極的にPRする必要があるのではないか。
- サ. 高松には香川学会があり、今回の中間報告の内容部分に当たる要点は20ジャンル以上あり、専門家もそれぞれいる。あくまでも任意の団体だが、今回を期に、連携を取り合って、最終答申に臨まれるのはどうか。

問4 最後に、屋島の持つ特性や価値を再発見し、屋島の保存と活性化を図るため、屋島に対する御意見等があれば何でも御記入下さい。

- ア. 子供が遊べる屋内外施設を設営することにより家族連れを誘致することができる。県内外からの利用が見込める。
- イ. カップル向けの「カフェ」「夜景レストラン」などで半日～終日過ごせる屋島をアピール（若者向け）する。
- ウ. 直島のレラスレストランは瀬戸内海の景色を見ながら時間を過ごすのに最適である。屋島にもこうしたものがあれば遍路以外のリピーターを創造でき滞在時間を増やすことができる。
- エ. 山上駅などへの現代アートの展示による見学客の増加に伴う食事箇所としてはおしゃれなレストラン以外にも豊島の島キッチンのようなものを廃屋撤去跡地に設置するのも良い。
- オ. 地元の人をもっと訪問できるようにするにはドライブウェイなど道に沿って桜を植え訪問する理由を与える必要がある。（四国には桜の名所が少ない。女木島方式で広く一般市民に呼びかける）
- カ. 「屋島のお宝展」などの住民をまきこんだイベントの実施。活性化のポイントは住民の盛り上がりがあるかないかだと思ふ。
- キ. 屋島の観光客数が年々減少しているのは、日本人の価値観が変わって来ているからではないか。何もしなければ屋島は忘れられてしまう。屋島の特性を生かし、さぬきの名を全国に知らしめることのできる施設で全国に発信していくことが必要である。例えば若者や家族が集まれるパーク、アウトレットモールのように集客力のある総合施設である。
- ク. 屋島は自然に出来た奇観、景観や歴史的偶然によって生まれた名所、旧跡を単に商品化したにすぎない。古典的観光が日本の観光のこれまでの姿であり屋島も全くこれに符合した観光地であったと思う。屋島を論じる時、山上と山麓そして海岸部はそれぞれ景観、文化、歴史の区別に強弱をつけた視点が必要である。これまでの屋島を見る限り観光の対象には、手をつけるべくもなく道路などを中心とした、その支持施設に重点的に投資が行われてきたようで、元来もっている景観だけにたよるのでなく、瀬戸内歴史資料館の様な連携やろう人形館の移設など、ハードのみならず折々のダイナミックなイベントを行い、県外へ向けた効率良い発信を継続的に行うことで相当の効果が見込めると思ふ。それには担当部署に数値目標を与えたり、他市の事例研究などで、十分成果は上がるのではないか。
- ケ. 香川県民、高松市民は「屋島の夕日」を心の原風景として持っているはず。ドライブウェイの無料化や公園等の整備により、例えば夕日とライブ（モンバスの様な）を組み合わせたイベント等により、地域住民及び観光客の集客を図るべきと考える。
- コ. 屋嶋城跡の整備にともない、観光施設となるような工夫をお願いしたい。（見るだけのものでは人は来ないと思ふ。）
- サ. 近隣に民家が少ないので、是非コンサートスペース、イベントスペースとして改修して欲しい。（5,000～8,000人規模のイベントが可能なスペース、駐車場、トイレ、水電気等）
- シ. 観光資源としても、大切なものと思ふが、公園のような、もっと公共性のあるものにすることも、考えられる。
- ス. ホテルのロビーにパンフレットを置き積極的に屋島をアピールしたり、ホテルからの送客も可能である。